

## 2-1 機械の故障発生！規制時間内に工事を終わらせるには

### 1. 立場と仕事

舗装会社で数多くの高速道路の工事に従事し、入社してから二十数年が過ぎた頃のこと。ある高速道路で暫定的に行われていた片側対面通行を元の状態に戻す工事を現場代理人として指揮を取った。施工延長約 10km の区間で仮設中央分離帯の撤去と、上り車線と下り車線を繋いでいた東西の渡り線の撤去工事である。これを、約 1 日の通行止めにより、施工管理の職員 20 人と作業員約 800 人（47 班）を投入し、実施することになった。

### 2. 遭遇した事態

仮設中央分離帯の撤去作業と東西の渡り線（施工延長各 230m）の舗装撤去作業を同時に行っていたところ、作業中盤で、東渡り線、西渡り線それぞれで稼働していた大型路面切削機が 2 台とも同時に故障してしまった。東渡り線は舗装、セメント安定処理路盤を切削している最中に故障し、西渡り線は舗装切削時に、舗装を削りすぎて下層にある舗装ズレ止め用のメッシュ筋が溶接された敷鉄板舗装部にまで刃が到達し、メッシュ筋が路面切削機に絡みつき動かなくなったものだった。

不測の事態に備えて予備大型路面切削機をあらかじめ用意していたが同時に 2 台故障することは想定しておらず、予備機は 1 台しかなかった。すでに一部舗装を撤去していたため、作業は継続せざるを得ず、どうしたものかと頭を抱えることになった。

### 3. 対応内容とその結果

残りの作業時間、作業内容、作業員の構成等を勘案して通行止め解除までに作業を完了させるためにはどうすべきか考えた。

東渡り線は路面切削機でしか作業できないため、1 台しかない予備機を配置して作業を継続させた。西渡り線は路面切削機に絡みついたメッシュ筋を撤去させながら、舗装を部分的に研って、敷鉄板をつなぎ合わせている溶接を先行して切断させた。そして、吊り上げ荷重等安全面で問題がないことを確認した上で、舗装がついた状態のまま敷鉄板をクレーンで吊り上げトレーラーで搬出する作業に変更させた。

通常ではおこなわない舗装構造であったためにおこったトラブルであるが、状況を正確に把握し、不測の事態に臨機応変に対応することで無事に通行止め時間内に作業を終了させた。また、広範囲の工事であったが、現場施工の職員を能力に合わせて適材適所に配置していたことにより、瞬時に状況を把握できたこと、指示事項とその意図が作業員まで正確に伝達でき、実行できたことにつながり、現場を混乱することなく対応できる一因となった。